

# 同和問題（部落問題）の解決に向けて ～「なくそう差別 築こう明るい社会」の活用～



## 令和5年度版「なくそう差別 築こう明るい社会」

同和問題（部落問題）を正しく理解し、認識を深めるための研修資料



資料は、県HPにも掲載しています。

## 同和問題（部落問題）に関する基本認識

同和問題（部落問題）は、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、一部の人々が長い間、経済的・社会的・文化的に厳しい環境を強いられ、今なお日常生活で様々な差別を受けている、我が国固有の人権問題です。

部落差別は、被差別部落（同和地区）があるから存在しているのではありません。部落差別をする私（たち）がいるから、被差別部落（同和地区）があるのです。

### 部落差別の現状と課題

国は、部落差別が今なお起きているとして、以下のような事例を示しています。

- 結婚・就職等における差別
- 差別落書き等（インターネット上の情報）
- 身元調査等
- えせ同和行為

インターネット上で、不当な差別的取扱いを助長・誘発する目的で、特定の地域を同和地区であると指摘するなどの事象が発生しており、大きな問題となっています。

児童生徒が、同和問題（部落問題）に関する誤った認識や偏見によって差別心をもつことがないように、正しく理解できるように学習を展開することが大切です。

## 部落差別の解消の推進に関する法律

平成28年12月16日公布・施行

### 第1条（目的） 部落差別のない社会の実現

「現在もなお部落差別が存在する」と示されている。

### 第5条（教育及び啓発） 部落差別を解消するための教育・啓発活動の推進

私たち教職員が、本法律を理解し、部落差別の解消に向けた教育を進めていくことが大切です。



## 社会科の教科書記述に基づいた同和問題（部落問題）に関する学習

### 学びの視点を明確にした授業構成を

- 視点① 人々の生活を支え、文化の創造・継承に努めてきたことに気付く。
- 視点② 厳しく差別されてきた身分の人々への差別の不合理さについて考える。
- 視点③ 厳しく差別されてきた身分の人々が不合理な差別の中をどのような思いで生きてきたかを理解する。

## 部落問題学習で大切にしたいこと

- 1 正しい歴史認識に基づいて学習する
- 2 「生きる勇気と知恵」に満たされた生き方を学ぶ
- 3 教科書に記述されている「被差別身分呼称」に込められた思いを意識する
- 4 同和問題を自分に引き寄せて考える

学習後は、児童生徒の受け止めを確認し、誤った認識等があれば、個別の学び直しをして認識を改める機会をもちます。授業の様子は家庭にも知らせ、学校の人権教育への理解を深めるようにします。



## 同和問題（部落問題）と進路保障

子どもたちの進路の実現を阻む差別等をなくすとともに、同和地区の子どもたちをはじめ、全ての子どもの確かな自己実現を図り、差別を乗り越え、差別をなくす力を高めることをめざす「進路保障」は、「同和教育の総和」と位置付けられています。

### 「統一応募用紙」制定の精神に学ぶ

家族構成などの記入を求めた「就職応募用紙（社用紙）」を見直す運動が広がり、昭和48年に「全国高等学校統一用紙（統一応募用紙）」が制定されました。そこには、差別をなくし、一人一人の進路を保障しようとする願いが込められています。

採用選考に当たっては、応募者の適性・能力を基準として行い、応募者の基本的人権が尊重されることが重要です。

ワークシート例等は、県HPからダウンロード！

